哲学・倫理学教育に有用な映画作品リスト

16/05/21　更新

担当：萬屋　博喜（広島工業大学）

このリストについて

このリストは、「**哲学・倫理学教育に有用な映画作品**」の紹介を目的としています。現在、リストは作成中であり、Twitter や e-mail その他での情報提供を受けて、随時更新していきます。情報提供者の名前を記載したいと思いますので、記載を希望される場合、ぜひご連絡ください。

なお映画作品については、通販やレンタルで比較的容易に入手できるものを厳選しております。ただし、「哲学・倫理学系のテーマを扱った映画作品」の網羅が目的ではないことをご注意ください。リストの作成に際しては、日本医学教育学会のテンプレートを利用させていただきました。「生命医療倫理教育に有用な映画作品」のリストについては、日本医学教育学会・倫理プロフェッショナル委員会活動 2013 のホームページで公開されています（http://jsme.umin.ac.jp/ba/eas/jmse_recommend_movies.html）。あわせてご参照ください。

映画作品の教育上の活用法について

哲学・倫理学教育上の映画の活用法については、

① 講義中に見せる（一部／全編）：問題提起、事例説明、ディスカッションの素材……

② 事前・事後学習として全編見せる：レポートの課題、講義の予習・復習……

③ 想定する視聴人数：10~20 人（小規模）、40~70 人（中規模）、100 人以上（大規模）

といったものが考えられますが、それ以外にも活用法がありましたらご意見をいただけると嬉しいです。

また、作品をご紹介いただける場合には、どういう教育上の目的でどのシーンをどこまで見せるのか、グロテスク・暴力的シーンを含むのかどうか、といったことを併記していただけると助かります。

参考 URL

A LIST OF PHILOSOPHICAL FILMS：http://www.philfilms.utm.edu/2/filmlist.htm

参考文献

マーク・ローランズ（2004）『哲学の冒険：「マトリックス」でデカルトがわかる』、石塚あおい訳、集英社。

浅井篤（編）（2006）『シネマの中の人間と医療 - エシックス・シアターへの招待』、医療文化社。

井上順孝（編）（2009）『映画で学ぶ現代宗教』、弘文堂。

伊勢田哲治／なつたか（2015）『マンガで学ぶ動物倫理』、化学同人。

児玉聡／なつたか（2013）『マンガで学ぶ生命倫理』、化学同人。

本橋哲也（2006）『映画で入門　カルチュラル・スタディーズ』、大修館書店。

内藤理恵子（2011a）『哲学はランチのあとで：映画で学ぶやさしい哲学』、風媒社。

内藤理恵子（2011b）『映画じかけの倫理学』、風媒社。

中村道彦（2007）『映画にみる心の世界――パノラマ精神医学』、金芳堂。

坂和章平（2010）『名作映画には「生きるヒント」がいっぱい！』、河出書房新社。

志田陽子（編）（2014）『映画で学ぶ憲法』、法律文化社。

哲学入門

・エリック・グスタヴソン監督『ソフィーの世界』（1999、ノルウェー）：哲学者の問いとアイデアの紹介

・ジャン＝ピエール・ポッジ、ピエール・バルジエ監督『ちいさな哲学者たち』（2010、フランス）：ディスカッションの素材

哲学史入門

・ロバート・ゼメキス監督『コンタクト』（1997、アメリカ）：オッカムの剃刀
・デレク・ジャーマン監督『ウィトゲンシュタイン』（1993、イギリス）：写像理論、言語ゲーム

人生の意味

・リドリー・スコット監督『ブレードランナー』（1982、アメリカ）：人生の意味
・ケネス・ブラナー監督『フランケンシュタイン』（1994、イギリス・日本・アメリカ）：実存主義、人生の意味
・デヴィッド・フィンチャー監督『ファイト・クラブ』（1999、アメリカ）：人生の意味、生死
　【注意】暴力的シーンを含む
・デヴィッド・ラッセル監督『ハッカビーズ』（2004、アメリカ）：実存主義
・テリー・ツワイゴフ監督『ゴーストワールド』（2009、アメリカ）：人生の意味

懐疑論

・ラナ・ウォシャウスキー、リリー・ウォシャウスキー監督『マトリックス』（1999、アメリカ）：夢の懐疑、水槽の中の脳
・キャメロン・クロウ監督『バニラ・スカイ』（2001、アメリカ）：外界の懐疑
　【用途】ロバート・ノージックの経験機械の説明
・リチャード・リンクレイター監督『ウェイキング・ライフ』（2001、アメリカ）：外界の懐疑
・クリストファー・ノーラン監督『インセプション』（2010、アメリカ）：夢の懐疑
・押井守監督『うる星やつら２　ビューティフル・ドリーマー』（1984、日本）：夢の懐疑

心身問題

・ジェームズ・キャメロン監督『ターミネーター』（1984、アメリカ・イギリス）：心身問題
・押井守監督『攻殻機動隊』（1995、日本）：脳の中の幽霊
・ニール・ブロムカンプ監督『チャッピー』（2015、アメリカ）：心身二元論
・スティーヴン・スピルバーグ『A.I.』（2001、アメリカ）：ロボットの心

クオリア

・リドリー・スコット監督『ブレードランナー』（1982、アメリカ）：クオリア
・ヴィム・ヴェンダース監督『ベルリン・天使の詩』（1987、フランス・西ドイツ）：クオリア

時間

・ジェームズ・キャメロン監督『ターミネーター』（1984、アメリカ・イギリス）：タイム・パラドックス
・ジェームズ・キャメロン監督『ターミネーター２』（1991、アメリカ）：タイム・パラドックス
・マイケル・スピエリッグ監督『プリデスティネーション』（2014、オーストラリア）：タイム・パラドックス

記憶

・リチャード・グラツァー、ワッシュ・ウェストモアランド監督『アリスのままで』（2014 年、アメリカ）：記憶障害

人の同一性

・ポール・ヴァーホーヴェン監督『トータル・リコール』（1990、アメリカ）：人の同一性

・クリストファー・ノーラン監督『プレステージ』（2006、アメリカ）：人の同一性

【用途】デレク・パーフィットのトランスポーター（思考実験）の説明

アイデンティティ

・マブルク・エル・メクリ『その男ヴァン・ダム』（2008、ベルギー・ルクセンブルク・フランス）：自己認識、アイデンティティ

・スパイク・ジョーンズ監督『マルコヴィッチの穴』（1999、アメリカ）：自己認識、アイデンティティ

自由意志

・スティーヴン・スピルバーグ監督『マイノリティ・リポート』（2002、アメリカ）：自由意志

究極の問い

・ガース・ジェニングス監督『銀河ヒッチハイク・ガイド』（2005、イギリス）：究極の問いと答え

正義

・マシュー・ヴォーン監督『キック・アス』（2010、イギリス・アメリカ）：正義

・中村義洋監督『フィッシュストーリー』（2009、日本）：正義

家族

・Ｊ・Ｊ・エイブラムス監督『スーパー８』（2011、アメリカ）：家族

労働

・チャーリー・チャップリン『モダン・タイムス』（1938、アメリカ）：労働倫理、働く意味、労働の権利

・佐藤祐市『ブラック会社に勤めてるんだが、もう俺は限界かもしれない』（2009、日本）：労働倫理、従業員の道徳的権利

【用途】冒頭の 30 分を見せる

【事前・事後学習】授業後に続きを見てもらう（図書館を利用する）

権利

・マイケル・ラドフォード『イル・ポスティーノ』（1994、イタリア・フランス）：表現の自由

責任

・モーガン・スパーロック監督『スーパーサイズ・ミー』（2004、アメリカ）：責任

信頼

・ルネ・クレール監督『そして誰もいなくなった』（1945、アメリカ）：信頼

・ジョン・カーペンター監督『遊星からの物体 X』（1982、アメリカ）：信頼

功利主義

・クリストファー・ノーラン監督『ダークナイト』（2008、アメリカ・イギリス）：功利主義、究極の選択
【用途】フェリー爆破のシーン（要編集）
【事前・事後学習】事前学習として全編を見てきてもらう
【注意】グロテスクなシーンを含む

義務論
・ポール・ヴァーホーヴェン監督『インビジブル』（2000、アメリカ）：ギュゲスの指輪

遺伝子操作
・アンドリュー・ニコル『ガタカ』（1997、アメリカ）：遺伝子操作、差別

黄金律
・ジョシュア・オッペンハイマー監督『アクト・オブ・キリング』（2012、デンマーク・インドネシア・ノルウェー・イギリス）：黄金律、政治的自由
【注意】虐殺事件を題材にした映画のため、残虐なシーンを含む

経済倫理
・マイケル・ムーア監督『キャピタリズム　マネーは踊る』（2009、アメリカ）：資本主義
・ジョシュア・マイケル・スターン監督『チョイス！』（2008、アメリカ）：民主主義
・ヴォルフガング・ベッカー監督『グッバイ、レーニン！』（2003、ドイツ）：社会主義、共産主義

戦争倫理
・橋本忍監督『私は貝になりたい』（1959、日本）：戦争責任
・岡本喜八監督『日本のいちばん長い日』（1967、日本）：戦争責任

動物倫理
・黒田晶郎（他）監督『いぬのえいが』（2004、日本）：伴侶動物
【用途】「A Dog's Life」（約８分）、ディスカッションの素材
・エルヴィン・ヴァーゲンホーファー監督『ありあまるごちそう』（2005、オーストリア）：大量生産
・ニコラウス・ゲイハルター監督『いのちの食べかた』（2008、ドイツ）：大量生産
【注意】グロテスクなシーンを含む
・ロバート・ケナー監督『フード・インク』（2008、アメリカ）：大量生産
【注意】グロテスクなシーンを含む

環境倫理
・高畑勲監督『おもひでぽろぽろ』（1991、日本）：自然と人間の共生、里山倫理
・高畑勲監督『平成狸合戦ぽんぽこ』（1994、日本）：都市開発、持続可能性
【用途】チャプター２４～２７（約 20 分）
【事前・事後学習】事前学習として全編を見てきてもらう
・宮崎駿監督『もののけ姫』（1997、日本）：自然（環境）と人間（技術）の共生
【用途】チャプター２５～２７（約 20 分）
【事前・事後学習】事前学習として全編を見てきてもらう

【注意】グロテスクなシーンを含む